

<特集「看護学教育の可能性」>

保健看護学研究科博士後期課程に求められるもの

星 野 明 子*

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科保健看護学専攻
京都府立医科大学医学部看護学科

Requirements for the Doctoral Course in Nursing for Health Care Science

Akiko Hoshino

Graduate School of Nursing for Health Care Science, Kyoto Prefectural University of Medicine
School of Nursing, Kyoto Prefectural University of Medicine

抄 録

長寿社会の日本，一方で18歳人口は2018年を機に約118万人から減少傾向を続ける。「2018年問題」を抱えて大学は全入時代に入った。

本学では，平成14年京都府立医科大学医学部看護学科に改組し，16年後の今年（平成30年4月1日）保健看護学研究科博士後期課程が設置された。本学学部と大学院博士前期後期課程における看護学の教育体系がようやく整った。博士後期課程では，高い教育研究能力を持つ高度な専門職業人として，保健看護学の専門性を活かして，教育や病院など多様な場で活躍できる人材の育成を目指している。

今後，わが国の健康問題はさらに複雑化多様化し続けていく。本学博士後期課程の教育成果については，将来の健康問題に博士後期課程修了生の関わる姿を見守りながら考えたい。

キーワード：博士後期課程，保健看護学，教育体系。

Abstract

Japan is an aging society; however, the 18-year-old population will continue to decline from approximately 1.18 million people as from 2018. With the “Year 2018 problem,” universities and colleges have entered into an era in which the enrollment capacity of universities exceeds the number of high school graduates.

In 2002, our nursing school was reorganized as the Undergraduate School of Nursing, Kyoto Prefectural University of Medicine, and 16 years later (April 1, 2018), the Doctoral course in Nursing for Health Care Science of the Graduate School was established, which comprises undergraduate and graduate programs for nursing studies. The goal of the Doctoral course in Nursing for Health Care Science is to develop highly competent professionals with superior teaching and research ability to be successful in various workplaces, including educational scenes or clinical services at hospitals, using the specialties of the Nursing for Health Care Science.

平成30年10月24日受付 平成30年10月25日受理

*連絡先 星野明子 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465番地
ahoshino@koto.kpu-m.ac.jp

Health problems in Japan will continue to diversify and become more complicated. The educational outcomes of the Doctoral course in Nursing for Health Care Science will be evaluated according to the involvement of doctoral degree holders in complicated health problems in the future.

Key Words: Doctoral Course in Nursing for Health Care Science, The Nursing for Health Care Science, a educational system.

はじめに

大学教育の変革期といわれる現在の大学進学率は、52.6%である。18歳以上人口予測では、平成21～32年までは120万人前後の状況が続く、平成33年以降は減少傾向が予測されている¹⁾。2000年頃の大学全入時代の到来以降、18歳人口は2018年を機に約118万人から減少傾向を続けて、大学運営に大きく影響する「2018年問題」を抱えている。

近年の看護系大学および大学院設置の動向をみると、看護系大学は、全国に263校設置（平成30年4月1日現在）されて、国公私立別にみると国立42校、公立49校、私立172校あり、特に私立大学による看護学部の設置が多い²⁾。私立大学の看護学部を含む保健系の学部入学定員充足率は、過去5年間100%超えを維持している現状である³⁾。若年人口の減少する時代における学生獲得対策の一つとして、看護師国家試験資格取得を謳う看護学部や看護学科を新たに開設したことが増加の一因と考えられる。

看護系の大学院設置数では、平成10年には、

前期課程（修士課程）28校、後期課程7校だったが、平成30年迄の合計数では、前期課程275校（定員合計数2,722人）、後期課程94校（定員合計数625人）に増えている。平成30年度の新たな大学院の設置は、博士前期課程は10校（公立1校、私立9校）、本学を含む博士後期課程は6校（公立3校、私立3校）である²⁾。前述の若年人口減少を背景にした看護系学部設置数の増加に伴って、看護系大学院の開設数も増えてきた。（図1）

看護系大学院は学部4年に博士前期課程2年、後期課程3年であり、学部6年に博士課程4年を積み上げる医学系や薬学系とは違い、大学院教育課程の定員数と希望者数も大きく異なる。また、総合大学と単科大学の組織規模によっても違っていて、筆者の確認では看護系大学の博士前期課程の定員数は6-15名程度、博士後期課程は3-8名程度の幅がみられた。看護系大学院への進学看護系大学卒業者の就職・進学状況を見ると、卒業時点では就職が93.4%、進学が4.9%、何処にも該当しない者が1.8%で、昨年度の進学6.1%に比べてやや低値を示している。平成28年

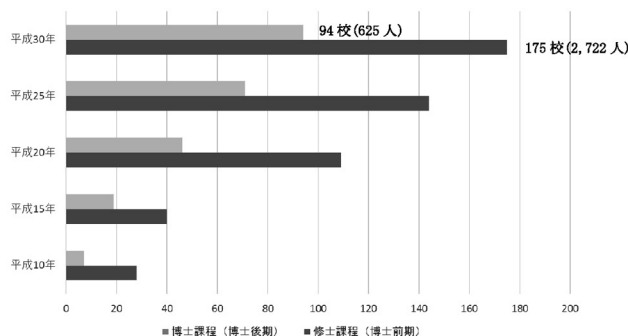


図1 看護系大学院数および定員の推移

杉田由香里：平成30年度日本看護系大学協議会定例総会「看護系大学の現状と課題」講演資料の一部データに基づいて著者作図

の学部卒業生の国内の看護系大学院への進学者は助産師課程が373名(2.1%)、次いで大学院進学が344名(1.9%)を示しており、例年と同様の傾向と報告される⁴⁾。看護系大学院への進学割合は多くはなく、学部と同様に大学院でも、定員充足率は気になる状況が続いている。

さて、京都府立医科大学における看護教育の歴史は、明治22年に附属産婆教習所の発足から始まり、現在まで130年の長い歴史を刻み、多くの看護職者を輩出してきた。日本における看護教育制度上の特徴である看護師養成制度から学校教育制度への変化⁵⁾は、本学では京都府立医科大学附属看護専門学校から、医療技術短期大学を経て、平成14年の京都府立医科大学医学部看護学科の開設にみられる。その後、平成19年に大学院保健看護学研究科修士課程の設置によって大学院における看護学教育が始まり、平成30年4月1日、新たに博士後期課程が設置された。大学への改組後16年を経て、看護学部と大学院保健看護学研究科を持った看護学の教育体制が整備された。

保健看護学研究科博士後期課程の 必要性と求められる人材

保健看護学研究科博士後期課程(以下、博士後期課程とする)の必要性には社会的背景と関連する問題がある。日本の高齢社会における様々な問題は、京都府でも同様にあり、それは高い高齢化率と地域特性や医療の偏在状況などを含み多様化、複雑化している。

第1に、高度化し複雑化する先進医療の現場における看護課題への対応が求められている。高齢者を対象とした急性期の看護ケアの問題は、独居や高齢者夫婦のみ世帯の術後高齢者の在宅での療養生活への看護支援のために、慢性期に必要な看護技術や支援システムの開発が必要とされる。第2に、京都府の医療および看護格差(地域偏在)地域性と高齢化問題とが重なる多様なニーズへの対応が求められる。たとえば、医療偏在地域や過疎集落の高齢者や術後患者への継続した看護支援のための他職種との連携時の課題解決と地域ケアシステムの確立が必要とさ

れる。第3に、わが国の急速な少子・高齢化、多様な健康観や格差社会・国際化、そして高度先進医療が進んでいることを背景にして、様々なニーズを抱えた人々への看護ケアの質的向上が求められている。看護学教育研究におけるニーズを学際的に探究し、臨床現場、地域包括ケアなどの多様な場で活躍する高い能力を有する高度専門職業人の育成が急務であり、その研鑽の場としての博士後期課程の設置は喫緊の課題であった。本学が実施した平成25年に京都府内の総合病院の看護管理者(25機関31名)に対するアンケート調査の結果では、8割以上の者が本学での博士後期課程の設置を希望しており、また、博士号を取得した看護師を管理職として雇用したいと考えている者が9割を超える(94.7%)など、本学から輩出される人材に大きな期待が寄せられていた。本学の博士後期課程修了者に対する臨床現場や地域の保健福祉施設からの高いニーズが読み取れる。

今後の取り組むべき課題とされる先進医療や地域包括ケアにおいて、本学博士後期課程は、保健看護学研究にとり組み実践に生かすことのできる高度な看護実践能力を持つ人材の育成が求められると考える。

保健看護学研究科博士後期課程の 理念と目的、教育課程の特色

1. 博士後期課程の理念と目的

博士後期課程では、社会の基盤となる健康的な地域づくりを支えるための看護実践に活用可能な理論構築やシステム開発を目指し、科学的な思考に基づいた京都府内や北部医療の看護ケアニーズを解決するために、看護教育を通して地域に答え、高度な専門的知識と技術の発展と高度かつ先進的な教育・研究を推進する府内の教育中枢機関として機能することを理念として掲げる。

京都府立医科大学大学院学則 第1章第3条に「専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする」を教育・研究上の目的としている。これを受けて、

保健看護学研究科博士後期課程では、倫理性と論理性に裏付けられた質の高い保健および看護を提供するために、高度な研究能力と実践能力、教育能力の涵養を図り、保健看護学研究を担う高度な専門職業人を育成する。

2. 教育課程の特色 (図2)

本学保健看護学研究科博士後期課程では、保健看護学の専門性を生かし、体系的かつ実践的な教育を実施し、卓越した教育研究能力と実践能力を兼ね備えた高度な専門職業人の育成を目指す。その対象は、個人から地域社会や環境全般におよび、健康と疾病の連続性に着目した予防活動や加齢により変化する人間の健康生活に必要なケアと支援の実践をその目的とする。近年の高齢化に伴い、医療や保健・看護の問題が複雑化・多様化する中、本学保健看護学研究科では、看護学を中核として、個人から地域社会における生活者の健康や、疾病の連続性に適応した予防活動・人間の健康維持に必要なケアと環境改善への支援を行う領域を「保健看護学」と位置づけた(以下、「保健看護学」とする)。

本学の博士前期課程では、人々の健康の維持・増進および疾病からの回復とセルフケアの実践が行えるよう、保健看護学の専門性を学び人々の健康生活支援に携わる人材を育成してきた。これを受け、本学保健看護学研究科博士後期課程では、保健看護学の専門性を生かし、体系的かつ実践的な教育を実施し、卓越した教育研究能力と実践能力を兼ね備えた高度な専門職業人の育成を目指すこととする。保健看護学領域には基盤実践保健看護学分野と広域実践保健看護学分野をおく。基盤実践保健看護学分野では、高度先進医療の場における複雑化する看護課題に対する研究に取り組み、質の高い看護を提供する実践力を育成し、臨床における研究や実践、教育方法の開発し、臨床現場の問題を解決するためのより深く探求する。高度医療の場や医療依存度の高い臨床現場の理解を、臨床腫瘍学や臨床健康科学などを学修し、必要な倫理的課題に向き合うために、がん看護学や成人看護学における課題をさらに探究する必要がある。また、看護管理学の看護支援のための組織管理

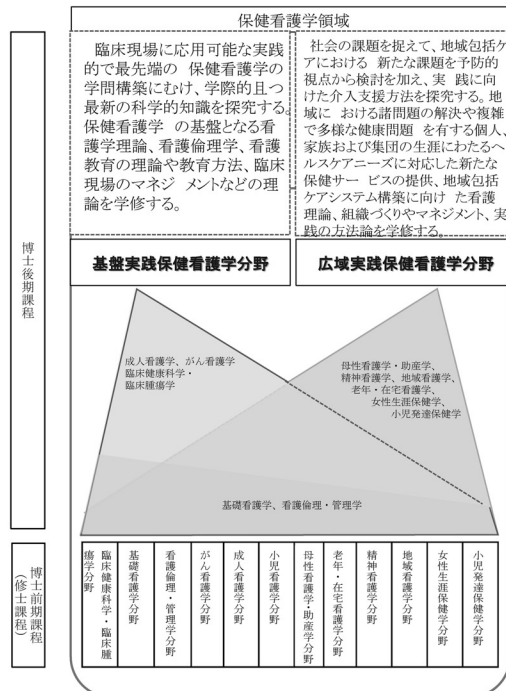


図2 保健看護学分野

の新たな必要性について追求し、看護技術、看護理論（基礎看護学）では、そうした場の新たな看護ケア開発を進めていく事が求められている。広域実践保健看護学分野では、生涯にわたり、地域的課題（地域性）を考慮し、複雑で多様な健康問題を有する個人、家族および集団のヘルスケアニーズに対応した新たな保健サービスを提供するために、他職種・多機関と共に地域包括ケアシステム構築に向けた実践方法の開発を目指す。生涯にわたる多様な健康問題のヘルスケアニーズに応じた支援を母性看護学・助産学、小児看護学、老年看護学、小児発達保健学、女性保健学を通して学習を深める。さらに、地域包括ケアシステム構築に向けた実践方法の開発について、地域看護学、精神看護学、在宅看護学、母性看護学・助産学の学びをさらに探究することが求められる。

教育課程は、人々の保健・医療のニーズに対応し、QOLの基盤となる健康の保持増進と疾病の予防を目的として、科学的な視点から常に良質な看護ケアおよび保健サービスを提供するための自立した研究活動や教育能力を養うための科目を講義や演習形式で提供する。また、高度な専門職業人としての必要な理論や概念を学び教育研究能力を涵養し、実践活動に向けた能力を養うための科目を講義や演習形式で配置している。大学院の教員は、学生が希望する研究に必要な組織的指導を可能とする講義、関心領域での演習、特別研究を一連の流れで教育できるようにそれぞれの教員を配置し、博士後期課程の院生にとって関心のある学部科目、博士前期課程の聴講を可能とするといった学生の関心領域を自由に学べる学修環境を可能にしている。

育成する人材像および修了後の将来像

本課程では、高い教育研究能力を有する高度な専門職業人として多様な場で活躍する人を育成したい人材像としている。ディプロマポリシーには、①高い倫理性を持ち最先端の生命科学・医学・看護学の知識に裏づけられた保健看護学の研究の蓄積と理論を開発し得る研究者を育成するとして、保健看護学の学際的研究推進

に必要な高い倫理観を修得している、②高度な専門的知識と自らの実践を統合して、地域社会における保健看護のニーズに対応したシステムを開発・マネジメントできる看護実践を実証する能力を身につけている、③生命科学・医学・看護学の知識に裏づけられた保健看護学の研究成果を応用し、看護の質向上に寄与することができる、の3つを挙げている。

日本看護系大学協議会による調査報告では、博士後期課程修了生が習得すべき能力として、〈看護哲学を迫及する〉〈知識や技術を創造する〉〈発言力を持つ〉〈変革力をもつ〉〈次世代を育てる教育力をもつ〉〈看護学を発展させる〉〈学際的な視点をもって対応する〉〈グローバルに対応する〉の8つを示している⁶⁾。本学博士後期課程のディプロマポリシーにある教育と実践で求められる新たな知見を実証し応用していく能力と、前述した8つの能力とは重なる内容が多いと考える。

博士後期課程修了者には、修了後に教育研究の場、臨床や地域など多様な場での活躍が期待される。たとえば、臨床現場の管理職、教育責任者、地域包括ケアシステムリーダー等の高度な専門職業人であり、博士後期課程修了者は、京都府内の総合病院の管理職である看護部長および教育担当責任者として、また地域の保健・医療・福祉など、地域包括的ケアの様々な臨床現場における管理職としての活躍が期待できる。

本学博士後期課程の修了生には、博士後期課程で培った学際的研究能力を活かし、高度な専門性を持つ教育者として看護系大学や、地域社会が求める高度実践看護師として活躍すると共に、多様な場における人材育成にその能力を発揮することを期待する。

おわりに

中央教育審議会では、今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめに、2040年の高等教育の課題の一つである18歳人口減への対応について魅力的な高等教育の提供を方向性として示した⁷⁾。看護系大学院における全国的な傾向として、大学院博士前期・後期課程の今後の定員

充足率についての懸念を冒頭で述べたが、今後は、大学院への進学希望者にとって魅力的な大学院教育の場の提供が求められる。

日本看護系大学協議会による調査報告⁶⁾では、博士後期課程で習得すべき能力をつけるために必要となる教育内容を例示し、各大学の教育理念に基づいた独自のカリキュラムの構築と発展を促している。本学博士後期課程では、完成年度に向けた修了生の輩出と、本学の教育の理念

と目的・目標に基づいたカリキュラムの評価が必要である。同時に、保健看護学研究科の大学院教育を担当する教員の研究の質と内容が問われることになる。

本学の求める人材像の育成の評価については、将来の多様化複雑化する健康問題に、博士後期課程修了生の活躍する姿を見守りたいと思う。

開示すべき潜在的利益相反状態にはない。

文 献

- 1) 文部科学省. 学校基本統計. 18歳人口と高等教育機関への進学率の推移 2016.
- 2) 杉田由香里, 文部科学省. 看護系大学の現状と課題. 平成30年度日本看護系だが区協議会定時総会資料 2018.
- 3) 日本私立学校振興・共済事業団. 平成30年度私立大学・短期大学等入学志願動向 2018; 22頁.
- 4) 日本看護系大学協議会. データベース: 看護系大学・大学院の卒業生・修了生の病院・診療所への就職割合 2017; 104.
- 5) 杉森みどり: 看護教育学. II 看護教育制度の特徴. 東京. 医学書院 1999; 50-72.
- 6) 日本看護系大学協議会高等教育行政対策委員会: 平成26年度文部科学省大学における医療人養成推進等委託事業「看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究」報告書. 日本看護系大学協議 2016.
- 7) 大学分化学会将来構想部会: 今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ. 中央教育審議会 2018.

著者プロフィール



星野 明子 Akiko Hoshino

所属・職：京都府立医科大学医学部看護学科・大学院保健看護学研究科地域看護学・教授

略歴：1996年3月 聖路加看護大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程修了・修士（看護学）
 1996年4月 山形大学医学部看護学科 助教
 1998年4月 日本赤十字看護大学（看護学部）講師
 2002年3月 東北学院大学大学院人間情報学研究科人間情報学専攻博士後期課程修了・博士（学術）
 2004年4月 京都大学医学部 看護学専攻 准教授
 2007年4月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻（博士前期課程）准教授
 2008年4月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）准教授
 2009年10月 京都府立医科大学医学部看護学科・保健看護学研究科 修士課程 教授（現在に至る）
 2018年4月 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科博士後期課程 教授（現在に至る）

専門分野：地域看護学，公衆衛生看護学

- 主な業績：1. 石川信仁，星野明子他．男性特定健康診査受診者の再構成した指導区分とメタボリックシンドロームとの関連．*日本健康医学会雑誌*，**25**(4)：310-314，2017.
2. 星野明子，志澤美保，白井香苗他．都市部高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成．*京府医大看紀要*，**26**：67-70，2016.
3. 西澤美香，星野明子他．農山村地域に居住する壮年期者のコミュニティ意識と健康との関連．*日本農村医学会雑誌*，**63**(5)：734-746，2015.
4. 星野明子，桂敏樹，編，著者 他9名．はじめの一步からやさしく進める かんたん看護研究．南江堂，東京，2012.
5. Akiko Hoshino, Kanae Usui and Toshiki Katsura. The development of a town of safety, security and health project in an area with a very high population aging rate. *Journal of Rural Medicine*, **6**(2)：65-70，2011.

